

平成29年度 第1回子ども未来応援会議 議事録 【要約】

日時：平成29年8月2日（水）13時30分～15時

場所：藤枝市役所3階会議室

主催：藤枝市教育委員会教育

子ども未来応援会議は、「教育日本一のまち藤枝」を目指し、次代を担う子どもたちを健やかに育成するための教育環境の充実を総合的に推進するために組織され、学識経験者や教員、保護者、関係団体など17名の委員で構成されています。

今年度は、教育振興行動計画に基づき各課において各事業が実施されている状況を確認のうえで、後期行動計画の策定に向けて、教育振興基本計画に掲げる「学びの環境づくり」に必要な課題等について、多面的・包括的に意見・助言をいただきました。

発言者	発言内容等
委員長	<p>【委員長挨拶】</p> <p>この会議は、皆さんのご意見をたくさん出してもらうのが趣旨である。遠慮なく積極的にご発言をいただきたい。</p> <p>この藤枝市子ども未来応援会議に出席し、皆さんの話を伺っていると、時代がすごい勢いで変わってきていることを痛感する。このような新しい時代の中で、将来を担う子どもたちを、どのように育てていくかは、非常に重要なテーマで、それをこの場で皆さんと一緒に議論でき、学ぶことができるのはすばらしいと思う。</p>
事務局	<p>【教育部長挨拶】</p> <p>教育現場では、平成32年度からは、新しい学習指導要領が実施される。ICT教育環境の導入や、特別な支援を必要としている子どもが増えている状況、さらには、教員の多忙化の問題など、新たな課題が山積しており、大きな変革が求められている。</p> <p>本市では、そのような変化に備える施策を事前に展開するとともに、子どもを中心に、家庭・地域・学校等がそれぞれの役割を分担し、連携しながらオール藤枝体制で、未来を担う子どもたちの教育環境を創っていきたいと考える。</p> <p>今年度は本市の教育施策の方向性を示す「藤枝市教育振興行動計画」の前期計画の最終年次である。前期計画の総括、また、後期行動計画の策定を控えている年でもある。国の第3期教育振興基本計画の策定の動きもふまえながら、子どもたちによりよい学びの環境を提供できるような計画を策定したい。</p> <p>本会議は、市教委・及び市が行う教育施策に関して必要とされる施策提案やご助言をお願いする「外部有識者会議」という位置づけになっている。教育施策の効果的な展開に向けて、それぞれの立場から多くの意見をいただきたい。</p>

委員長	教育振興行動計画の進捗状況について、事務局より資料の説明をお願いします。
事務局	<p>藤枝市教育振興行動計画においては、教育振興基本計画に掲げた3つの目標を中心とした施策体系により、19課、165事業で構成されている。このうち35事業が再掲であり、実際は130事業を実施している。また、行動計画の28事業においては、数値指標を定め、客観的に達成度が確認できるようにしている。</p> <p>現在、130事業のうち1事業は実施を前提に事前検討段階で、129事業については事業が実施されている状況である。本来であれば、全施策について説明すべきところであるが、この会議で皆様からいただいたご意見をどのように活かしたかも含め、一部になってしまうが説明する。</p> <p>【施策1 教育に関する市民意識の醸成について】 自治会やPTA等によるあいさつ運動や見守り等、さまざまな活動が行われている。これはまさに、市民総がかりで子どもを育成していくことの実践である。各学校では他人を思いやる「ピア・サポート活動」が確実に浸透しており、保護者を中心として地域に浸透していくよう、子ども未来応援事業として、市民への啓発、意識の醸成に力を入れたいと考えている。</p> <p>【施策2 家庭教育を地域ぐるみで支援について】 ライフスタイルの多様化や少子化などにより、家族で過ごす時間の減少や、子育てに悩む家庭が課題になっていることなどから、より一層の家庭教育への支援の必要性が高まっている。 家庭での教育力向上や、困窮家庭への支援が求められる中、主に中学生に対する学習支援である学習チャレンジ支援モデル事業においては、平成28年度に、これまでの生活保護受給世帯の対象から就学援助受給世帯へも拡大したことにより、参加者が大幅に増加した。今後も引き続き、困窮家庭への支援やペアレントトレーニング・親学や子育て支援事業などの実施を通して、地域一体となって家庭教育を支援していく。</p> <p>【施策3 学校、公民館を核に家庭・地域・学校等が一体となって取り組む教育の推進について】 学校サポーターズクラブ事業では、学校で行われる様々な活動に地域住民が自らの知識や技能を活かしてボランティア参画する地域ぐるみの教育実践の場となっている。 花壇の水かけや校内の美化清掃をはじめ、調理実習、ミシン指導、地域の歴史学習など、積極的に地域の教育力を学校教育へ活用していただくことで、教員の子どもに対するきめ細やかな指導時間の確保や子どもたちが地域の大人と接することで思いやりの心や郷土愛の醸成に確実に繋がっている。</p> <p>【施策5 地域の実態に合った特色ある教育を小中学校接続で推進について】 小中学校の9年間という長期的な視点で子どもたちの成長・発達を見通し、地域の特性を活かした活動を行う小中学校連携ドリームプランの延長として、小中一貫教育の推進を図っている。また、小規模校の良さを活かした教育活動の充実として、平成28年度、瀬戸谷地区において小中一貫教育推進協議会を設置し、瀬戸谷地区小中一貫教育推進計画</p>

を策定した。計画では、小中の学校教育目標の一元化を図ったほか、英語、理科、音楽などの小中一貫カリキュラムを作成した。

瀬戸谷地区においては、小学校高学年が週1日中学校において生活するほか、小学校3年生からの外国語活動の先行実施や理科専科による授業を行っており、順調にすすんでいる。今年度は、瀬戸谷地区以外にも、小中一貫教育推進協議会を立ち上げていく。

【国際感覚を伴った英語運用能力の育成について】

現在、全小中学校にALTを配置し、小5から中3まで週1回のチームティーチングを行っている。今年度は、新学習指導要領による小学校3年生からの外国語活動の導入に備え、ALTを1名増員する。その他、海外姉妹都市とのスカイプを活用した異文化交流の拡大や、ALTを活用した英語課外授業としての「Fujieda English Camp」の開催などを通し、引き続き国際感覚やコミュニケーション力の育成を図る。

【施策7 心のふれ合いを通じた対人関係力の育成について】

集団生活にうまく適応できない児童生徒や、特別に支援を必要とする児童生徒が増加していることから、学校支援相談員を増員配置するなど対応し、きめ細やかな支援を行っている。

【施策8 確かな学力の育成と環境整備について】

国が進める「教育の情報化ビジョン」に基づき、「ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現」「子どもたちの情報活用能力の育成」を行うため、先進校への視察を実施したほか、ICT環境の整備を計画的に行うため「藤枝市教育ICT化整備計画」を策定した。今年度からは、計画に基づき、校務用パソコンを更新するとともに、モデル校7校で電子黒板やタブレットなどのICT環境の整備を行い、計画的拡大に向けた検証を行う。

【施策 11 特別支援教育の充実について】

発達に課題を持つ子どもについて、早期に支援に結び付けていくだけでなく、切れ目なく支援するための人材育成や園内の支援体制の構築を目指して、幼保園を対象とした実践セミナーの開催や、生後4か月までの乳児家庭訪問を実施している。

また、課題を持つ子の親に対して、子どもの特性に合わせたケアを記載していくサポートブックの作り方講座を実施するなど、支援者が変わっても継続的に個に応じた適切な支援が受けられる体制づくりを進めている。

【施策14 広範囲にわたる学びのステージの提供について】

放課後子ども教室(放課後子どもプラン事業)においては、現在7教室が活動中で、うち6教室は地区交流センターを中心に活動している。学校サポーターズクラブと同じく、地域ごとに特色が出てきている。課題としては、核となるボランティアの発掘・育成が難しいところであり、新たな地区に教室の拡大ができていないことである。以前の会議でも「もっとボランティアを育成する講座等を行えばどうか」との意見もあったが、学校サポーターズクラブやプレイパーク等の実績から見ても、事業に賛同してボランティアとして参加してくれ

	<p>る方は多くいるが、そのボランティアをまとめ、運営の中心になってくれる人材が見つからないことが課題である。</p> <p>【数値目標について】</p> <p>平成 28 年度の数値目標の達成度のみ見ると、目標数値に届いていない事業もあるが、平成 25 年度からの推移として見ると、概ねの事業において、着実に数値が伸び、各事業とも「施策のねらい」を実現するために一步一步確実に推進していることがわかる。</p> <p>事業によっては、国や県等の方針により、事業の体制や進捗に影響があったり、めまぐるしい社会情勢の変化や、各地域等の実情によって実施形態の変更等が必要になったりした事業もある。本年度策定する後期行動計画においては、事業内容及び数値目標をもう一度精査し、より未来を見据えた教育環境づくりにつながる計画を策定したいと考えている。</p> <p>本日の会議では、前期行動計画の施策実践を踏まえ、今後の藤枝市の教育施策を考えていく中で、ご意見をいただき、後期行動計画に新たなエッセンスを加えていきたい。</p> <p>現状欄にも記載のとおり、現在、本市では、次期学習指導要領では、外国語活動が小学 3,4 年からになり、小学 5,6 年から教科化されるため、ALTの増員などにより体制づくりを進めている。また、プログラミング教育についても本年度より学校現場の教育ICT化の導入推進、加えて、理科科学教育の充実を考え、非常勤講師による理科専科教員の小学校高学年への導入などもモデル実施している。これは、本市で推進する小中一貫教育導入の一環でもあり、現行の小中学校の体制はそのまま分離型で、義務教育 9 年間の接続を意識した現行ドリームプランの考えを踏襲しつつ昇華させる方式で、瀬戸谷地区を皮切りに全市的に実施していきたい。引き続きの意見交換において、本市の教育施策をさらに特色あるものとし、「学びの環境モデルふじえだ」を実現するために、皆様の専門的な見地で大所高所からのご意見をいただければと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>事業に対してや、市から提示された課題について、気がついた点や日ごろの観察・体験等からの思うことなどご意見をいただきたい。</p>
<p>学識経験者</p>	<p>瀬戸谷地区の小中一貫教育について質問。</p> <p>学習指導要領の改定では、地域も含め、話し合いながら学校教育を展開していくという点がある。瀬戸谷は地区柄地域の人と密接に関わっていると思うが、他の地区での展開等も踏まえ、今現在、瀬戸谷地区においての地域の人との関わり方、どのような形ですすめているのか教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>これまで小中連携ドリームプラン事業を展開しており、小学校中学校の連携がますます深まっている。10 中学校区で目玉となる事業をそれぞれの学区で展開している。</p> <p>地域の関わりについては、新学習指導要領でも「社会に開かれた教育課程を」と謳われているため、今後ますます地域との関わりが必要になってくる。現在でも、それぞれの学校で「学校サポーターズクラブ」があり、その団体からの支援は、授業内外でたくさん行ってもらっている。</p>

	<p>小中一貫教育においては、今後、瀬戸谷以外の学区でも推進していくが、その際に、必ず、地域・学校・保護者が一体になって、その中学校区でどのような小中一貫教育を目指していくかを、3者がしっかり話し合って導入していく。今後、地域との結びつきがますます深くなっていく。</p>
学識経験者	<p>他の地域での例だが、小学校においては比較的、地域との関わりが多いが、中学校においては、少し薄れてしまう傾向がある。具体的に、3者の話し合いがどのタイミングで、どのような形なのかがはっきりわかると、他の地区でも使えると思う。</p>
事務局	<p>小中一貫教育については、各学校にある評議員会を一元化して、地域の方に参画してもらい、具体的に、その地域での小中一貫教育の計画を策定していく。</p> <p>現在は、各学校にある評議員会を1つの中学校区にまとめている段階である。最終的には、学校・地域・保護者・行政が一体となって教育を進めるコミュニティスクール化も目指してすすめている。</p>
市民	<p>家庭・地域・学校が3者一体となって地域の子どもを守ろう、育てようと心がけている。大洲地区においては、市街化調整区域として制限があり、少子化が著しい地域である。子どもは、例年1学年90人平均で推移していたが、4年前から急激な少子化になり、昨年度は出生者が39人しかいない。</p> <p>子どもが地域に残る、一度出て行ってもまた戻ってくるよう、地域に愛着を持ってもらうような対策を講じている。</p> <p>現在は、ふれあいまつりや運動会など地域の行事に中学生はボランティアとして参加してもらうなど、地域とのつながりを維持している。</p> <p>一番の問題は、地域に子育て世代がいらない、定着しない、子どもが増えないことである。子どもの教育と共に、少子化の問題も地域一体となってやらなければいけないという課題がある。自治会としても、放課後クラブに助成金を出すなど、応援をしている。</p>
市民	<p>農業に携わっているが、高齢化に伴い、耕作放棄地が増えており、国・県・市も困っている。子どもたちや地域を巻き込んで何かやろうということで、高洲の「みのり会」という会で、ビオトープを作り、自然を楽しみながら田植えから収穫まで一連の作業を子どもたちとやっている。毎年やっているが、参加者が固定化されている。参加者を増やす方法を考えるが、保護者から「めんどくさい」という意見があるため、保護者の意識改革が必要だと思われる。これは、PTAの問題についても同じ事で、PTAの活動も「やりたい人がやればいい」「めんどくさい」などの声が多い。保護者も子どもも積極的に出てこられる環境を創らなければならない。いい意見があれば出してほしい。</p>
学校関係者	<p>静岡県立藤枝特別支援学校には小学生114名、中学生68名在籍している。藤枝市と静岡市の教育委員会の連携モデル事業で「交流籍事業」を行っている。本事業は、各小中学校に交流籍名簿を作り、本来はその学区の子どもだが、特別支援学校に通っていることを認識してもらうための事業である。藤枝市の共生教育の意識が高いという背景から、県下では藤枝市と沼津市が研究指定されて行っている。</p> <p>埼玉県・長野県・浜松市では先駆的に行っている。</p> <p>メリットは2つある。1つは、特別支援学校の子どもは、子ども会の名簿から外れ</p>

	<p>ることがあるが、交流籍により、本来その学区の子だが、特別支援に行っている子がいるという認識を持つことの啓発である。2つめは、交流及び共同学習として、小学校や中学校の授業に入ることの円滑化である。</p> <p>実績として、昨年度小学生114名のうち、32名（28%）、中学校68人中17人（25%）が普通学校と交流を行った。最終的には50%以上は目指したいと思っている。そうすることで、障害がある人への理解・啓発をすすめ、共に生きる社会づくりを目指したい。交流籍事業の推進に協力をお願いしたい。アイデア提案もお願いしたい。</p>
委員長	率直にどこにバリアがあるのか。子どもたちにあるのか、大人にあるのか。
学校関係者	<p>交流をお願いしても受けてくれる担任がない。</p> <p>校長まで話が通っていないなどにより話が頓挫することがある。</p> <p>交流籍があることで、スムーズになると思われる。</p>
団体代表	<p>様々な資料から、藤枝の教育事業は盛りだくさんだと感じる。例えば、ソフトバンクとの連携により、Pepperを各学校に配置したが、1学期の間はどのPepperもおじぎをしていただけなのではないかと感じる。マナーブックも年代別に作ったはいいが、その後どうなっているのか聞きたい。数日前 JAXA との連携の記事が出て、宇宙教育を教職員にという記事があった。教員の多忙化解消が課題になっているが、そんな日はくるのであろうか。藤枝の教育の特色を活かしてやっていかなければいけないと思うが、とても盛りだくさんだと感じた。</p>
事務局	<p>教育振興基本計画にもあるように、子どもたちの学びにとってすばらしい環境を創りたいという思いで、いろんな分野で事業を展開している。</p> <p>マナーブックについては、発達段階に応じた本になっているので、各学校に配布し、各学級で担任がマナーブックを使い、子どもたちと一緒に話をしている。</p> <p>教員の多忙化については、昨年度より県の指定を受け、高洲中学校で取り組んでおり、今年で2年目になる。できるだけ教員に負担をかけずに事業をすすめていきたいと考えている。</p>
学識経験者	<p>新学習指導要領により、道徳が教科化される。例えば、道徳の授業で地域の高齢者を呼ぶなど地域の力を活用したらよいのではと思う。例えばスマホの使い方など、世代のギャップを知るだけでも子どもたちにとっては発見である。例として、高齢者が学校の情報の授業に出席したら、地域の高齢者は公民館が企画した情報の授業に出席したとカウントされ、修了証がもらえる。一方子どもたちは、その授業に出席したら、学習指導要領の道徳の学習をしたことになるなど、相互にメリットがあるようにすればよいのではないかと。そうすれば、お互い負担感がないのでは。</p> <p>学校教育と社会教育は同じ「教育」と付くが、有り様は全く異なる。学校教育は決められた範囲の中で教育を提供する。社会教育は自発性が重視されるため、何でもありの世界である。社会教育には学校の先生から見ると、それでいいのかと思い、驚いてしまうことがあると思う。先生方には、地域との連携というのは、どのような人とどうやっていくことなのかという、認識を高める研修が必要なのではないか。市として、何をしたいのか、教育委員会が発信することができれば、人と人との関わりやすさがでてくるのではないかと。</p>

学識経験者	<p>以前、現場で教員をやっていたが、本当にやることが多く、毎日をやり過ごすことで手一杯で、その上で何かが入ってくると、プラスの仕事としてとらえてしまう。文科省から、学習指導要領の改定においては、授業の内容の削減はしないと出ているため、「多忙」は解消されないとと思う。「多忙感」を少しでも減らすことでしか解決できないと思う。その上で、地域の力を使っていくことが重要であると思う。地域の力を活用するために、コーディネーターをつけられれば良いが、予算の問題もあり、最終的には教頭がやるというのが現状であり、本来の仕事が回らなくなる。評議員でもよいが、地域など学校の外に学校と活用できる人材とを調整するコーディネーター役をできる人がいればよいと思う。</p>
委員長	<p>教員の多忙化の問題は、踏み込んで考える時期にきていると思う。学校現場を見ると、忙しい原因は、先生がやらなくて良い仕事をたくさんやっているからである。例えば先生には秘書がない。先生は事務職がやるべきこともやっている。先生はまじめで真剣だから、なんでもやってしまう。やらなくて良いことをやるから忙しいのである。この会に出席し、現場の意見を聞くことから学んだことでもあるが、先生は事務処理で忙しいと思う。</p>
団体代表	<p>商工会議所では、5～6年前から地元の商工業者の会員3,000を目指してやってきたが、現在2,600を切っており、廃業などで減る一方である。藤枝市は人口は増えているが、地元の産業や経済面を元気にしないと子どもの未来はないと思う。例えば、山に行くか、海に行くかで準備が違うように、学校現場において、子どもたちになぜ勉強するのか、例えば英語にしても同じで、なぜ英語をするのか、なぜ英語が必要なのかなどのイメージづくりをしないと、学びになっていかないとと思う。子どもたちは、ちょっとしたきっかけで可能性が広がるため、場面の提供やエッセンスの提供を大人がしていけないといけないと思う。</p>
学校関係者	<p>特別支援学校との交流については、学校に依頼があれば行っている。学校によっては、積極的に特別支援学校に出向いて学校と交流を行っているが、距離の問題もあるので、近い学校のほうが交流が盛んなのではと思われる。</p> <p>小中連携について、瀬戸谷は、学校・地域・保護者の連携がかなり進んで取り組んでいる。他の中学校区については、保護者や地域と一緒に話し合いはまだ行われていないが、教員同士のつながりはかなり強まっている。同じ中学校区の先生の中では、授業のやり方や生徒指導のやり方など、9年間で子どもを育てることの共通認識を持って、同じ目線を持って行っている。</p> <p>教員の多忙化について、教員は、小学校は特にトイレに行く暇もないほど忙しく、給食時間も指導があり、休憩時間がない現状である。その中で、外から入ってくる事業は、多忙感につながってしまう。</p> <p>先生は、子どものためにはやるがたくさんあり、特に小学校の先生においては、保護者から宿題をたくさん出す先生は良い先生、そして、宿題を見てくれる先生は良い先生であると認識される。先生は授業以外にも宿題をたくさん見なければいけ</p>

	<p>ない。さらに、宿題の評価にも保護者の方からご意見をいただくこともある。</p> <p>先生は、授業だけでなく、休み時間や宿題を見る時間もずっと神経を集中させなければならぬため、学級担任の多忙感が増しているのが現状である。</p> <p>夏休みの短縮化を藤枝市は考えてないとのことだが、先生は夏休みに入ってから多くの業務や研修がある。夏休みに入るとすぐ面談があり、本日も Pepper の研修、明日も英語の研修など、先生がやったことがない事でも、子どもたちに教えるために全てプロにならなければならないと、一生懸命学んでいる。先生は、本当に様々なことをやらなければならないのが現状である。</p>
委員長	<p>職業分析が大切であるが、教育界の人は明確に職業分析をしたことがない。</p> <p>科学的に職業分析をやって世間に訴えればよいのではないかな。</p>
学識経験者	<p>他の委員と同じように、藤枝市の教育施策は盛りだくさんという印象を受けた。</p> <p>本当に必要な部分をきめ細やかにやっていると思う。一方で、大きな目標として掲げる、「教育日本一」「藤枝らしさ」「藤枝型」という特色が少し薄いのでは。</p> <p>例えば、教員の多忙感については、部活の問題が今話題になっている。現在、部活の外部指導者の活用や、生涯スポーツの展開や、サポーターズクラブの活用など、施策ごとに様々な事業が展開されている。例えば、中学校の教員の部活のための時間を大幅に減らすことができないか、など、ポイントを絞って様々な施策を縦軸で見て、様々な部署と連携して事業を展開してみてもよいのでは。</p>
委員長	<p>磐田市では、小中学校の部活を引き受けるプロジェクトが始まっている。</p> <p>日本にはスポーツクラブが町に少ないため、学校スポーツになっている。スポーツクラブがあれば、学校の負担が解消できるかもしれない。</p>
市民	<p>体のことを中心にやっている。子どもはスイッチさえ入れればなんでもできる。</p> <p>何をやり抜くにも体力や健康な体がベースだと感じる。</p> <p>今は、小学校3年生でも肩こりや腰痛で保健室に頭痛や吐き気を訴えてくる子どもも多くなっている。そのような症状は、少し肩甲骨等を動かしたり、少し運動したりするだけで、解消される。そのくらい体を使う機会が少なくなっている。ただ、保護者も、どのように姿勢をよくしたらよいのか、なぜ姿勢のよさが必要なのかもわからないという。</p> <p>最近、浮き指ゴリラ姿勢などが最近の子どもの特徴と言われているが、なぜ肩こりや腰痛の問題になってきているか、どのように親子に伝えていけばよいのかと悩んでいる。</p> <p>市が昨年度から行っている、親子で体について学ぶ「子ども体づくりフェスタ」に携わっているが、小学生になると親も「めんどくさい」子どもも「恥ずかしい」「めんどくさい」ということで出てこないため、今年度は幼稚園児を対象に行った。</p> <p>低年齢時に体を支えることの大切さを体育や理科の授業で行えるとよいのでは。</p> <p>痛みが出てから病院に来るのでは遅く、事前に痛くならない体をつくるのが大切であると思う。</p> <p>最近学校で運動器検診が始まったが、親に知識がないため、肩甲骨やゆがみをチェックするのは難しい。少しでもチェックがあると、整形外科に行かされるだけなの</p>

	<p>で、チェックをつけない保護者もいる。そのため、検診を入れた方がいいが、早期発見につながっていないのが現実であり、目的や解決策がない。</p> <p>保護者も先生も、お勉強は一生懸命だが、体づくりが2の次になっているという印象があるため、体づくりにも関心を持って意識してほしい。</p>
学識経験者	<p>「教育は人なり」と言うが、先生や保護者には、ゆったりした気持ちで子どもに接してほしいと思う。他も委員と同じように、藤枝市はたくさん事業があるという印象がある。広く網羅することや、きめ細やかさも大切であるが、1番大切なのは、この時代に、目の前の子どもたちにどうなってほしいのかである。そのために何をしたらよいのかという芯のような強いものが必要だと思う。</p> <p>昔の社会の変化の速さは、ついていけるスピードであったが、今は、身近な世の中の変化のスピードが非常に速いため、子どもたちがついていけるのかと危機感を感じる。</p> <p>子どもたちが就職するころには、ほとんどの職業で人工知能が活躍する時代になり、人の出番がなくなると言われている。そのような社会で、居場所を見つけ、活躍の場を見つけ、生き抜いていける子どもを育てなければならない。大人が育ったサイクルとは違うことを大人は意識しなければいけない。</p> <p>時代の要請に応じて、藤枝市では早くからALTを配置したり、科学教室やドリームプラン、プレイパークを行ったりなど、それぞれ大事な事業で、他県や他市と比べても事業力は高いと感じる。</p> <p>少子化で、1人の子どもに対して、多くの大人が関わる時代なので、大人の意識を変える必要があると思う。あえて子どもを困らせる、悩ませる、厳しい場面を経験させるなど、大人が手助けしない覚悟を持ち、子ども自身に考えさせる、解決させる取り組みが必要である。これからの時代を生き抜く自信は、恥をかいたり、転んだり、自分で立ち上がった経験からしか身につかない。そのためには、大人の意識を変える施策はないのかと思う。何か問題があったときに、人や社会のせいにするのではなく、自分自身の人生に責任を持てる力強さを育てる施策を考えられるとよいと思う。</p>
団体代表	<p>青年会議所の地域の役割は、学校・家庭でできないことを様々な事業を通して子どもたちの未来の可能性を広げていくことだと思い、スマイルキッズタウンふじえだを2013年から始めた。今年も行う予定であり、そのような事業を通して子どもたちのサポートができればと思う。</p>
学識経験者	<p>将棋の藤井聡太棋士の話にあるように、幼少期から様々な経験をし、その中で将棋が好きになった。そして、祖母から将棋盤をもらったことをきっかけに将棋の楽しさに目覚め、今では日本の将棋界を引っ張る棋士となった。</p> <p>このように、今の子どもに必要なのは、自らどのように切り開いていくのか、その気持ちにどのようにして火をつけることができるのか、子どもたちが人を見て動くのではなく、自分で考えて動くことができるよう考えていかなければならない。</p> <p>藤枝市にはたくさんの事業があり、1つ1つきめ細やかで県内でも進んだ教育をしていると思う。各事業はきめ細やかであり、本日配布された資料からはどのような事業を行ったのかはよくわかるが、子どもがその中でどのように変化したのか、子</p>

	<p>どもの姿が見えてこない。</p> <p>何をやって何人参加したかではなく、今まで引っ込み事案だった子どもが、事業を通して発表するようになったなど、具体的に、そのような変化がどのくらい起きているのか、どのように変わったのかが、わかるようなものになればよい。</p> <p>いろんなことに目を向けて、子どもたちが飛び込んでいくことを教えるのではなく、導く、黙って我慢して、子どもがやることを見守ることが大切であると思う。</p> <p>藤枝の教育において、様々なことをやるのはすばらしいが、質の高いサポーターを育て、子どもの自主性を高めることが今後大切になっていくと思う。</p>
学識経験者	<p>学校の先生の様子を聞いて、先生の現状がよくわかった。例えば、宿題を見るのが良い先生であるという話があったが、教師は授業に専念することが専門で、宿題は、ボランティアの人が見るという方法もある。</p> <p>「大人の意識を変える」という点で言えば、大人が知っていないと子どもに伝えられないという感覚は持っていてもう遅いと思う。英語や Pepper など、大人でもわからないことは子どもの知恵を借りるなども1つの解決策なのではないか。変化の激しい世の中を生きる子どもたちにとっては、大人に教えた経験が活きるかもしれない。大人が全て示すのではなく、反面教師でよい、大人も子どもも助け合っていくのがよいのではないか。</p>
市民	<p>両親の共働きや核家族化が進む現代で、大人と子どもが触れ合う機会が少なくなっている。先生も子どもにとっては大人であり、先生とのふれあいの時間は、子どもの人格形成にとってよい影響があると思う。先生は多忙であるが、できるだけ、先生と子どもの触れ合う時間が多くあればよいと思う。</p>
委員長	<p>教育の問題は、教育に専念している人だけでは解決できない時代である。将来子どもたちをどうしたいのか、様々な分野の人が多面的に意見交換をすることが大切。藤枝の独特の教育、藤枝の売りはこれだというものがもっとあってよいのではないか。</p>
事務局	<p>教員の多忙化解消のアプローチについては、今年度すでに、学校の事務を120程度に分け、本来教員が行うものなのか、事務職員が行うものなのか、家庭・地域に委ねるものなのか、洗い出しを始めている。教員に楽をしてもらうためではなく、教員が子どもと向き合う時間を確保するための多忙化解消として市として進めている。</p> <p>藤枝市の事業は盛りだくさんであるが、子どもの知的好奇心は幅が広く、様々な場面で、様々な要因によって子どもの成長のスイッチが入ると思う。これが、教員の多忙化にならないように進めていきたいと考えている。今後も、様々なご意見をいただきたいと思う。</p>